

令和6年度 岡山学芸館高等学校 選抜1期入試【1月25日】 解答解説(数学)

1

【正解】 ① 7 ② -4 ③  $7x+10y$  ④  $4ab$  ⑤  $-4\sqrt{5}$  ⑥  $(x=-)2, 6$   
 ⑦  $(n=)5, 6, 7$  ⑧  $36(^{\circ})$  ⑨ ウ ⑩ 6(冊)

【解説】

- ⑤  $(3+\sqrt{5})(3-\sqrt{5})-\sqrt{2}(2\sqrt{10}+\sqrt{8})=3^2-(\sqrt{5})^2-2\sqrt{20}-\sqrt{16}=9-5-4\sqrt{5}-4=-4\sqrt{5}$   
 ⑥ 左辺を因数分解して、 $(x+2)(x-6)=0$ ,  $x=-2, 6$   
 ⑦  $2=\sqrt{2^2}=\sqrt{4}$ ,  $2.7=\sqrt{2.7^2}=\sqrt{7.29}$ より、 $\sqrt{4}<\sqrt{n}<\sqrt{7.29}$ ,  $4<n<7.29$  この不等式を満たす自然数  $n$  は、 $n=5, 6, 7$   
 ⑧ 正五角形の内角の和は、 $180^{\circ}\times(5-2)=540^{\circ}$ だから、正五角形の1つの内角の大きさは、 $\angle BCD=540^{\circ}\div 5=108^{\circ}$   
 $\triangle ABC$  は  $AB=BC$  の二等辺三角形だから、 $\angle BCA=(180^{\circ}-108^{\circ})\div 2=36^{\circ}$  同じように、 $\angle DCE=36^{\circ}$   
 よって、 $\angle x=\angle BCD-(\angle BCA+\angle DCE)=108^{\circ}-(36^{\circ}+36^{\circ})=36^{\circ}$   
 ⑩ 度数が最も大きい階級は、4冊以上8冊未満の階級だから、最頻値はその階級値であり、 $\frac{4+8}{2}=6$ (冊)

2

【正解】 ① 4(通り) ②  $\frac{5}{18}$  ③  $\frac{1}{4}$

【解説】

- ① [2], [4], [5], [6]のカードだけが残るのは、[1], [3]のカードを取り除く場合である。このときのさいころの目の出方は、 $(a, b)=(1, 3), (2, 3), (3, 1), (3, 2)$ の4通りある。  
 ② 大小2つのさいころの目の出方は全部で36通り。[4], [5]のカードだけが残るのは、[1], [2], [3], [6]のカードを取り除く場合である。すなわち、6の約数が書かれたカードが取り除かれるときで、このときのさいころの目の出方は、 $(a, b)=(1, 6), (2, 6), (3, 6), (4, 6), (5, 6), (6, 1), (6, 2), (6, 3), (6, 4), (6, 5)$ の10通りある。よって、求める確率は、 $\frac{10}{36}=\frac{5}{18}$   
 ③ 残ったカードに書かれた数の和が15となるのは、残ったカードが、[2], [3], [4], [6]の場合か[4], [5], [6]の場合である。すなわち、5の約数が書かれたカードを取り除く場合か、3以下の数が書かれたカードを取り除く場合である。このときのさいころの目の出方は、 $(a, b)=(1, 5), (2, 5), (3, 5), (4, 5), (5, 1), (5, 2), (5, 3), (5, 4), (3, 3)$ の9通りある。  
 よって、求める確率は、 $\frac{9}{36}=\frac{1}{4}$

3

【正解】 ①  $192(\text{cm}^3)$  ②(1)  $\frac{1}{4}$  (2)  $\frac{1}{4}$  (3) 24

【解説】

- ① (正四角錐  $ABCDE$  の体積) $=\frac{1}{3}\times(\text{底面積})\times(\text{高さ})=\frac{1}{3}\times 8^2\times 9=192(\text{cm}^3)$   
 ②(1)  $\triangle ACP$  と  $\triangle ACD$  の底辺をそれぞれ、辺  $AP$ ,  $AD$  とすると高さは共通だから、 $\triangle ACP : \triangle ACD=AP : AD=1 : (1+3)=1 : 4$   
 よって、 $\triangle ACP=\frac{1}{4}\triangle ACD$   
 (2) 三角錐  $ABCP$  と三角錐  $ABCD$  の体積の比は、底面  $\triangle ACP$  と  $\triangle ACD$  の面積の比と等しく  $1 : 4$  だから、  
 (三角錐  $ABCP$  の体積) $=\frac{1}{4}$ (三角錐  $ABCD$  の体積)  
 (3) 三角錐  $ABCD$  の体積は、正四角錐  $ABCDE$  の体積の半分だから、(三角錐  $ABCP$  の体積) $=\frac{1}{4}$ (三角錐  $ABCD$  の体積)  
 $=\frac{1}{4}\times\frac{1}{2}\times(\text{正四角錐 } ABCDE \text{ の体積})=\frac{1}{4}\times\frac{1}{2}\times 192=24(\text{cm}^3)$

4

【正解】 ①(1) (4, 2) (2)  $(y=)\frac{3}{4}x-1$  ②  $(t=)\frac{4}{3}$  ③  $6\sqrt{2}$

【解説】

- ①(1) 点  $C$  の  $y$  座標は、点  $A$  の  $y$  座標と等しく、 $y=\frac{1}{2}\times 2^2=2$ 、また、点  $C$  の  $x$  座標は、 $y=\frac{1}{8}x^2$  に  $y=2$  を代入して、 $2=\frac{1}{8}x^2$ ,  $x^2=16$ ,  $x=\pm 4$ ,  $x>2$  より、 $x=4$  よって、点  $C$  の座標は、(4, 2)である。  
 (2) 点  $B$  の  $y$  座標は、 $y=\frac{1}{8}\times 2^2=\frac{1}{2}$ である。直線  $BC$  の傾きは、 $(2-\frac{1}{2})\div(4-2)=\frac{3}{2}\div 2=\frac{3}{4}$ となるから、直線  $BC$  の式を、 $y=\frac{3}{4}x+b$ と表す。この式に、 $x=4$ ,  $y=2$ を代入して、 $2=\frac{3}{4}\times 4+b$   $b=-1$  よって、 $y=\frac{3}{4}x-1$   
 ② 点  $A$  の座標は $(t, \frac{1}{2}t^2)$ 、点  $B$  の座標は $(t, \frac{1}{8}t^2)$ 、点  $C$  の  $x$  座標は、 $y=\frac{1}{8}x^2$  に  $y=\frac{1}{2}t^2$ を代入して、 $\frac{1}{2}t^2=\frac{1}{8}x^2$ ,  $x^2=4t^2$ ,  $x=\pm 2t$ ,  $x>2$ ,  $t>0$  より、 $x=2t$ である。 $AB=\frac{1}{2}t^2-\frac{1}{8}t^2=\frac{3}{8}t^2$ ,  $AC=2t-t=t$  長方形  $ABDC$  の周の長さが4だから、 $2(AB+AC)=4$ ,  $\frac{3}{8}t^2+t=2$ ,  $3t^2+8t-16=0$ ,  $t=\frac{-8\pm\sqrt{8^2-4\times 3\times(-16)}}{2\times 3}=\frac{-8\pm\sqrt{256}}{6}=\frac{-8\pm 16}{6}$ ,  $t=-4, \frac{4}{3}$   
 $t>0$  より、 $t=\frac{4}{3}$   
 ③ 直線  $CE$  と  $y$  軸との交点を  $G$  とする。 $CE=BD=AC=t$  だから点  $E$  の  $x$  座標は  $3t$  である。よって、 $EC : EG=t : 3t=1 : 3$   
 $\triangle ECD\sim\triangle EGF$  より、 $CD : GF=EC : EG$ ,  $\frac{3}{8}t^2 : GF=1 : 3$ ,  $GF=\frac{9}{8}t^2$  よって、点  $F$  の  $y$  座標は、 $y=\frac{1}{2}t^2-\frac{9}{8}t^2=-\frac{5}{8}t^2$   
 また、点  $F$  の  $y$  座標は  $-5$  だから、 $-\frac{5}{8}t^2=-5$ ,  $t>0$  より、 $t=2\sqrt{2}$  したがって、点  $E$  の  $x$  座標は、 $x=3t=3\times 2\sqrt{2}=6\sqrt{2}$

5

【正解】 ①(ア) (1) (イ) (6) (ウ) (11) (エ) (14)

②(1)(オ)  $4\sqrt{10}$  (カ) 10 (2)(キ) 3 (ク) 5 (ケ)  $\frac{25}{24}$

【解説】

- ②(1)(オ) ①より、 $\triangle ADC\sim\triangle FEC$  だから、 $AD : FE=AC : FC$ ,  $12 : 3\sqrt{10}=16 : FC$ ,  $12FC=48\sqrt{10}$ ,  $FC=4\sqrt{10}(\text{cm})$   
 (カ)  $\triangle DBC$  と  $\triangle EDC$  において、 $\angle BDC=\angle DEC$ ,  $\angle DCB=\angle ECD$  より、2組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle DBC\sim\triangle EDC$   
 対応する角の大きさは等しいから、 $\angle CDF=\angle CBD=\angle CFD$  よって、 $\triangle DFC$  は  $CD=CF=4\sqrt{10}\text{cm}$  の二等辺三角形である。  
 ①より、 $AD : FE=DC : EC$ ,  $12 : 3\sqrt{10}=4\sqrt{10} : EC$ ,  $12EC=120$ ,  $EC=10(\text{cm})$   
 (2)(キ)(ク)  $\triangle ABC$  は、 $\angle CAB=\angle CBA$  の二等辺三角形、 $\triangle DFC$  は、 $\angle CDF=\angle CFD$  の二等辺三角形で、 $\angle CBA=\angle CFD$  だから、 $\triangle ABC\sim\triangle DFC$  となる。よって、 $AB : DF=AC : DC$ ,  $20 : DF=16 : 4\sqrt{10}$ ,  $16DF=80\sqrt{10}$ ,  $DF=5\sqrt{10}(\text{cm})$   
 したがって、 $EF : DF=3\sqrt{10} : 5\sqrt{10}=3 : 5$   
 (ケ)  $EF : DF=3 : 5$  より、 $\triangle DFC=\frac{5}{3}\triangle FEC$  また、 $\triangle ADC\sim\triangle FEC$  で相似比は、 $12 : 3\sqrt{10}=4 : \sqrt{10}$  だから、  
 面積比は、 $4^2 : (\sqrt{10})^2=16 : 10=8 : 5$  よって、 $\triangle FEC=\frac{5}{8}\triangle ADC$  したがって、 $\triangle DFC=\frac{5}{3}\times\frac{5}{8}\triangle ADC=\frac{25}{24}\triangle ADC$